

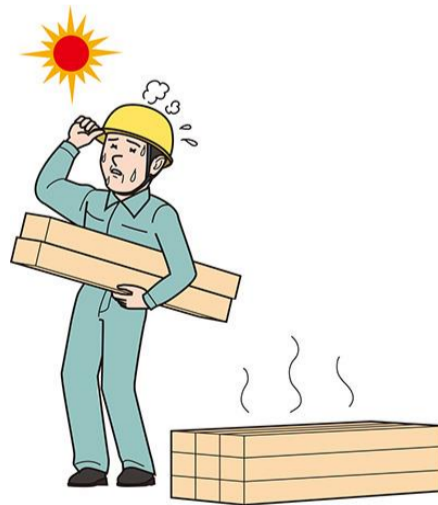
1. 9月全国行事
 - 1) 防災の日 9月1日
 - 2) 秋の全国交通安全運動 9月21日～9月30日
 - 3) 全国労働衛生週間準備月間 9月1日～9月30日
 - 4) 全国作業環境測定・評価推進運動 9月1日～9月30日
 - 5) 環境衛生週間 9月24日～10月1日
 - 6) 健康増進普及月間 9月1日～9月30日
 - 7) 心とからだの健康推進運動 9月1日～9月30日
2. 安全・衛生・防災の心得 : 高温は人的にも物的にも「非正常状態」
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)
4. 事故・災害事例から : 混合機の詰まりを取り除いていて重症
5. ヒヤリハット事例 : ちよい置きしていた器具の配線につまずき転倒

2. 安全・衛生・防災の心得 : 高温は人的にも物的にも「非正常状態」

気象庁の予報によると今年の夏も、地球温暖化の影響か、猛暑や豪雨・台風等、気象災害が予測されています。8月はまた、夏期休暇などで生活や仕事のパターンが通常と異なることが多く、職場では人的にも物的にも非正常の状態になり、事故や災害が起こりやすくなります。この8月、次の事項に注意が必要です。

 - ①感電事故・災害に注意 / 電気設備の絶縁劣化に加えて、体が汗などで感電しやすい。
 - ②熱中症に注意 / 熱中症対策は手抜きなく。特に高齢者や体調不良には特段の注意を。
 - ③ヤケドや薬傷に注意 / 暑くても必要な保護具や保護衣は正しく着装。
 - ④危険・有害なガスや蒸気に注意 / 高温で漏洩したり発散しやすい。特に高圧ガスの保管や取扱いには厳重注意。
 - ⑤機械や設備に注意 / 潤滑油や冷却関係でトラブルが発生しやすい。点検・整備の徹底を。
 - ⑥作業行動に注意 / 心身の不調等で、「うっかりミス」が。指さし呼称等で安全の確認を
 - ⑦冷房に注意 / 過度の冷房は体調を崩す。省エネのためにも、小まめな温湿度管理を。
 - ⑧健康管理に注意 / 良い睡眠、栄養、運動を心掛ける。食中毒には厳重注意。
 - ⑨台風・地震等の自然災害に注意 / 特にこの時期、台風・豪雨対策は備えをしっかりと。

汗など
ぬれた手で
コンセントや
電動工具に
触れない!



3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

①九州第二工場

イソナイト作業場の洗浄槽改造に併せて
転落防止柵も設置していた



②平塚第一工場

見通しの悪い通路等に衝突回避を目的にミラーを
設置し、労災予防の取組を行っていた



4. 事故・災害事例から : 混合機の詰まりを取り除いていて重症 ~混合機の攪拌羽根の箇所まで手を入れた~
他社災害事例

(1)災害のあらまし

ペレット状の材料を袋詰め作業中の協力会社の男性作業員(55歳・経験4ヶ月)が、混合機の落ち口から
製品が落ちてこなくなったので、落ち口に手を入れて詰まりを取り除いていた際、混合機の奥まで手を入れた
ため、攪拌機のアームに右手先を挟まれて第2、3指を切断したものです。

(2)災害の主な原因

- ①被災者は混合機の中の構造や危険性を知らないため、危険個所に手を入れたこと。
- ②これまでも落ち口の詰まりは手で掻きだすと簡単に排出されていたが、今回は製品の粘性の関係から
度々詰りが生じたこと。
- ③混合器の詰まりを駆動中に直接手で取り除くことは禁止されていたが、習慣的に行なわれていたこと、
など。

(3)同種災害の防止対策 例

- ①製品が落ち口で詰まらないように、混合器や攪拌機、落ち口等の改善を行う。
- ②落ち口に手が入らないように落ち口にバーを設置する。
- ③詰まりを取り除く用具を作製し、直ちに使用できるように備えておく。
- ④異常作業等の措置を含めた作業手順書を策定し、教育・訓練を実施する。
- ⑤監督者を含めて潜在危険を予知・予測して安全な行動の習慣づけを行う、など。

(4)環境安全部から

- ①被災者は混合器の中の構造や危険性を知らないために危険個所に手を入れた教育不足が要因。
- ②混合器の詰まりを駆動中に直接手で取り除くことの禁止事項等を、非定常作業の作業手順書に記入し、
教育、訓練を実施することが必要。

* 写真はイメージ



5. ヒヤリハット事例

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

事例	転倒
どこで	第三工場 乾燥炉室からセット室に出る所で
あらまし	乾燥炉からセット室に歩行にて移動中に
原因	ちよい置きしてあった器具の配線に足をひっかけて転倒しそう になった
教訓・対策	ちよい置き禁止。安全確認不足。